

長崎県下の水稻作期策定に関する研究  
第7報 県北地域における好適移植期および好適出穂期の推定

○船場 貢・泉 省吾・田崎信幸<sup>1)</sup>・島ノ江智弘<sup>1)</sup>・松下哲也<sup>1)</sup>・井上眞理<sup>2)</sup>  
(長崎総農林試・<sup>1)</sup>江迎農改・<sup>2)</sup>九州大学)

【目的】

長崎県県北地域の中山間地で栽培される「ヒノヒカリ」の玄米品質低下の要因は、登熟期間の低温であり、千粒重の低下、粒厚 2.0mm 以上の良質粒の低下がおこる。

高温・低温障害を避ける指標と 1996 年に開発された生育予測システムを用いて、本県県北地域の標高 50m 毎の地点で好適移植時期と好適出穂期を推定した。

【材料および方法】

- 1) 供試品種：「ヒノヒカリ」、「どんとこい」
- 2) 出穂期の計算方法：発育指数 (DVI) が 1 を超える日。
- 3) DVR の計算式： $DVR=a/10000*(T-b)*(L-c)$   
T は平均気温、L は日長時間、a、b、c はパラメータ
- 4) 好適出穂期早限：出穂後 20 日間の平均気温が 26℃ を超える日の前日
- 5) 好適出穂期晚限：出穂後 40 日間の平均気温が 23℃ を下回る日の前日
- 6) 好適移植期早限：好適出穂期早限に対応する移植期
- 7) 好適移植期晚限：好適出穂期晚限に対応する移植期

【結果および考察】

長崎県県北地域における標高 50m 毎の好適移植期と好適出穂期を表 1 に示した。標高 10m の好適出穂期は 8 月 21 日から 30 日までで、標高 350m の好適出穂期は 8 月 6 日から 14 日であった。この地域の実際の出穂期は玄米品質低下をおこす 9 月であった。「ヒノヒカリ」の好適移植時期は、標高 10m で 6 月 1 日から 20 日、標高 350m で 4 月 28 日から 5 月 10 日になった。一方、「どんとこい」の好適移植期は標高 10m で 6 月 22 日から 7 月 4 日、標高 350m で 4 月 28 日から 5 月 31 日になった。「どんとこい」の好適移植期は「ヒノヒカリ」のそれより約 20 日遅くなった。長崎県県北地域の「ヒノヒカリ」の実際の移植時期は、標高に関係なく 6 月 10 日ころであり、これらの結果から高標高地では移植時期を早めることが必要であると考えられ

た。標高 250m 以上で栽培される「ヒノヒカリ」は、好適移植期の晚限が 5 月 20 日以前であるため、灌漑水温が低く生育遅延の危険性があるため、早生種の「どんとこい」に変更するべきであると考えられた。

表1 県北地域における標高50m毎の適作型

品 種	標 高	好適移植期		好適出穂期	
		早 限	晚 限	早 限	晚 限
	m	月. 日	月. 日	月. 日	月. 日
ヒノヒカリ	10	6. 1	6.20	8.21	8.30
	50	5.25	6.12	8.18	8.27
	100	5.18	6. 4	8.15	8.24
	150	5.11	5.28	8.12	8.21
	200	5. 1	5.25	8. 6	8.20
	250	4.26	5.20	8. 4	8.18
	300	4.27	5.17	8. 5	8.17
	350	4.28	5.10	8. 6	8.14
どんとこい	10	6.22	7. 4	8.21	8.30
	50	6.17	6.29	8.18	8.27
	100	6.11	6.24	8.15	8.24
	150	6. 4	6.18	8.12	8.21
	200	5.22	6.15	8. 6	8.20
	250	4.26	6.10	7.27	8.18
	300	4.27	6. 7	7.28	8.17
	350	4.28	5.31	7.30	8.14

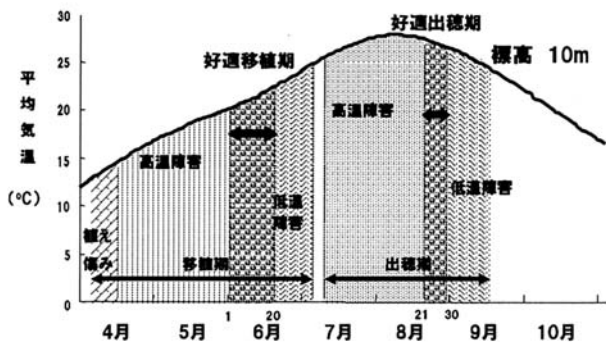
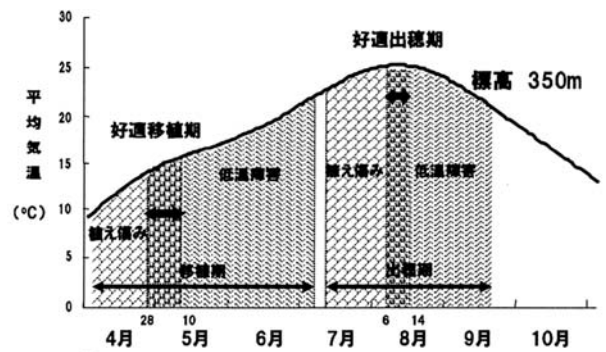


図1 県北地域における好適移植期と好適出穂期の推定